科目名			担当教員	
社会福祉援助技術演習Ａ			三浦 剛／君島 昌志／眞嶋 智彦／高野 亜紀子／二渡 努／芳賀 恭司／齋藤 征人／須田 仁ほか	
科目コード	単位数	スクーリング単位	履修方法	配当年次
CN3082	3	1	SR（講義）	2年以上
履修登録条件		「社会福祉援助技術総論」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録できます。また、実習を受講予定の方は「社会福祉援助技術実習指導Ａ」と同時に履修登録してください。		
生成AI利用レベル		レポート　：　C	試験（スクーリング含む）　：　C	

※ 本科目は2026年度より新カリキュラムの演習と合同で開講します。
※ 2009年度以降入学者に対して開設されている科目です。2008年度以前入学者、福祉心理学科、科目等履修生の方は、履修することはできません。
※ 社会福祉士国家試験受験資格を目指す学生を対象とした講義となります。

科目の概要

■科目の内容

この科目では、社会福祉士に求められる相談援助に係る基本的知識と技術について、実践的に習得することを目的としています。単なる理論的な学習だけでは、今日の支援を必要としている人たちが抱える課題の解決やニーズの充足を満たすことは困難といえるでしょう。理論を実践に役立てるためには、専門的援助技術の学習とその体得が不可欠となります。

本演習では、社会福祉援助技術における理論や知識を踏まえた上で、特に、倫理・価値観、面接技法などの基本的なソーシャルワーク実践の方法・技術のいくつかを取り上げ、役割演技、グループ討議などを通し、能動的、主体的に学習することを目的としています。

■到達目標

１）視点、モデル、アプローチなど社会福祉援助技術の枠組みが説明できる。
２）社会福祉専門職としての「自己」について、客観的な視点から説明できる。
３）社会福祉の価値、倫理について説明できる。
４）言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーションの基礎を身につけ、基本的な面接技術を学習の場で実践できる。
５）相談援助の過程について事例を通して具体的にイメージすることができ、説明できる。
６）相談援助の基盤と専門性について説明できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「倫理的実践力」「開発・創造力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価40%＋スクーリング評価60%

■教科書・参考図書

【教科書】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座［共通科目］13 ソーシャルワーク演習（共通科目）』中央法規出版、2021 年

（最近の教科書変更時期）2026 年 4 月

（スクーリング時の教科書）上記教科書を使用します。

【参考図書】

1）社会福祉法人大阪ボランティア協会編『福祉小六法 2026』中央法規出版、2025 年

スクーリング

■スクーリング受講申込上の注意

- この科目は、スクーリングの受講が必須となります。
- 1 クラス 20 人以内の少人数で開講します。
- 受講料は 10,000 円となります。
- 受講許可証・納入依頼書は、各受講判定日（申込締切日）以降に通知・発送します。
- スクーリング開講日・申込締切日は、通信教育部 HP 掲載の『試験・スクーリング情報ブック』または『With』を参照ください。
- 申込方法は、通信教育部 HP 掲載の『With』またはポータルサイトで案内します。
- クラス分けは無作為に行いますので、教員の指定はできません。
- 申込締切後の受講日・受講地の変更は受け付けしません。必ずしも第一希望での受講ができない場合があります。ご了承ください。
- 公共交通機関の延着を除き、遅刻・欠席は認められません。また、スクーリング終了時間前の退席も認められません。

■演習 A　スクーリング受講条件

受講判定日（＝スクーリング申込締切日）までに

①「社会福祉援助技術総論」の 1・2 単位めレポートの提出

②「演習A」の 1 単位めレポートの提出

③（入学後 1 年以上経過した方は）認定単位を除き卒業要件単位 20 単位以上の修得。

■スクーリング受講・単位認定について

演習のスクーリングにおいては、自己紹介、学生同士の話し合いや発表・ロールプレイング等の実施を予定しており、積極的な参加が求められます。

また、スクーリング時間内およびスクーリング試験において、ソーシャルワーク実践に関する基本的な視点や態度をどの程度修得することができたかについて確認をしていただきます。その確認内容が、スクーリングで学んだことと著しく相違していると思われる内容である場合には再履修となります（スクーリング試験は 60 点以上が必須。持ち込み不可。追試験等は一切ありません）。

出席、演習への取り組み、レポートなどにより総合的に評価し単位認定します（前項「■科目評価基準」参照）。

※単位修得できなかった方が再受講する場合、当該スクーリングの申込みは改めて必要になりますが、既に合格済みのレポートは有効となります。

■体験学習

詳細は、「演習 A」スクーリング時の「体験学習・実習ガイダンス」において説明します（実習希望者出席必須）。

※実習免除者は、「体験学習・実習ガイダンス」「体験学習」の受講は不要。

■養成課程履修費について

「演習 A」スクーリング受講が許可された方へ納入依頼書を送付します。期限までに納入してください。

※納入されない場合、「演習」、「実習指導」、「実習」の受講ができなくなりますので、ご注意ください。

■スクーリングで学んでほしいこと

1）ソーシャルワークの基盤となる倫理、価値規範について体験的に理解する

2）能動的な参加姿勢による自己覚知を体験する

3）コミュニケーション能力や基本的な面接技術を身につける

4）事例検討を通して実際の相談援助の過程を理解する

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	オリエンテーションソーシャルワーク専門職としての価値規範及び倫理の理解①	演習の目的、内容、評価基準等の確認 ロールプレイや援助場面を想定した事例研究、価値規範、倫理についてのディスカッション
2	ソーシャルワーク専門職としての価値規範及び倫理の理解②	上記の学習を通して、専門職の活動を具体的にイメージしたプレゼンテーション
3	援助関係の基盤となる他者理解、自己理解	事例研究、面接場面のロールプレイ、専門職としての他者理解、自己理解を通した自己覚知
4	ソーシャルワークの展開過程の理解	インテークから終結までのソーシャルワークの過程を事例研究、ロールプレイを通したプレゼンテーション
5	基本的なコミュニケーション技術の習得①	面接場面のシナリオを使用して役割取得訓練を行い、コミュニケーション技術の基本を確認、表現する
6	基本的なコミュニケーション技術の習得②	非言語の意味を理解し、トータル・コミュニケーションとしての面接を役割取得、ロールプレイ場面で表現する
7	面接技術の基礎を学ぶ①	ソーシャルワークにおける面接の目的と特性について学び、場面設定などの具体的な留意点に関するディスカッション
8	面接技術の基礎を学ぶ②	事例、シナリオを使用して、面接場面を役割取得、ロールプレイを行い、振り返りを通して面接技術の基礎を習得する
9	スクーリング試験	提示された論題について筆記試験を行う

■講義の進め方

1）パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。

2）教科書は参考程度に使用し、配付資料をもとに板書もしながら進めます。

3）グループになって取り組むことがあります

4）ロールプレイ（役割演技、疑似体験）を行うため、動きやすい服装、靴が望ましい。

5）児童虐待や DV 等に関する事例検討がありますので、苦手な人は無理せず一時的に退室してください。

■スクーリング評価基準

スクーリングの最後に試験を行います。スクーリング中に学んだ内容とソーシャルワークの専門知識を結びつけて論じる内容になります（持ち込み不可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10 時間）

教科書の第１章を読んできてください。

講義内容の関心あるテーマについて、自分なりに学びたいことを考えてきてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25 時間）

教科書の第２章～第５章を復習してください。また、レポート学習に取り組んでください。

レポート学習

■在宅学習 15 のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	社会福祉士に求められる役割①	社会福祉士に求められる役割について、法制度の成立から今日まで、時代の要請の変遷を理解する。 キーワード：国家資格、名称独占	複雑化、多様化するニーズに応えるために、ソーシャルワーク、ソーシャルワーカーに求められているものはなにか、考えてみましょう。 （テキスト第１章）
2	社会福祉士に求められる役割②	社会福祉士に求められる倫理について「日本社会福祉士会の倫理綱領」を読み、理解する。 キーワード：倫理綱領	「ソーシャルワーカーの倫理綱領」の意義やソーシャルワーカーのあるべき姿について考えてみましょう。 （テキスト第３章）（公益社団法人日本社会福祉士会 HP）
3	社会福祉士に求められる役割③	社会福祉士に求められる倫理について「日本ソーシャルワーカー連盟（JFGSW）の倫理綱領」を読み、理解する。 キーワード：倫理綱領	「ソーシャルワーカーの倫理綱領」の意義やソーシャルワーカーのあるべき姿について考えてみましょう。 （テキスト第 3 章）（日本ソーシャルワーカー連盟 HP）
4	人と環境の交互作用	生活モデル、システム理論、バイオ・サイコ・ソーシャルモデルの３つのモデルの基本的な理解 キーワード：交互作用	それぞれの事例に取り組み、ソーシャルワークが人と環境の交互作用に焦点をあてながら、どのように利用者理解や現状の把握を行い、支援につなげるのか、考えてみましょう。 （テキスト第２章）
5	コミュニケーション技術と面接技術	ソーシャルワークにおけるコミュニケーション技術の基本的な理解 キーワード：言語、非言語コミュニケーション	利用者との基本的な関わりにおけるコミュニケーション技術には構造があり、また、言語的、非言語的なコミュニケーションそれぞれの役割があることを考えてみましょう。 （テキスト第４章）

6	ソーシャルワークの原理・原則①	ソーシャルワークを実践する上でのソーシャルワーカーが取るべき行動規範であるバイスティックの７つの原則を理解する。 キーワード：ケースワーク、ラポール	バイスティックの７つの原則のうち「個別化」「意図的な感情表出」「統制された情緒関与」の原則について、概要をまとめてみましょう。（テキスト第３章、他のテキスト等）
7	ソーシャルワークの原理・原則②	ソーシャルワークを実践する上でのソーシャルワーカーが取るべき行動規範であるバイスティックの７つの原則を理解する。 キーワード：ケースワーク、ラポール	バイスティックの７つの原則のうち「受容」「非審判的態度」「自己決定」「秘密保持」の原則について、概要をまとめてみましょう。（テキスト第３章第２節、他のテキスト等）
8	ソーシャルワークの展開過程①	ソーシャルワークの展開過程のなかでもケースの発見、エンゲージメント（インテーク）について理解する。 キーワード：通告、要援護者の発見、アウトリーチ、保護、インテーク	ソーシャルワークの展開過程の各段階について確認しましょう。事例を通して演習課題に取り組み、解説を確認してみましょう。（テキスト第５章第１節、他のテキスト等）
9	ソーシャルワークの展開過程②	ソーシャルワークの展開過程のなかでもアセスメント（現状把握）について理解する。 キーワード：フェイスシート、アセスメント表	ソーシャルワークの展開過程の各段階について確認しましょう。事例を通して演習課題に取り組み、解説を確認してみましょう。（テキスト第５章第２節、他のテキスト等）
10	ソーシャルワークの展開過程③	ソーシャルワークの展開過程のなかでもアセスメント（現状把握）について理解する。 キーワード：エコマップ、ジェノグラム	ソーシャルワークの展開過程の各段階について確認しましょう。自分自身のエコマップ、ジェノグラムの作成に取り組み、ビジュアル的に現状を把握する方法について確認してみましょう。（テキスト第５章第２節、他のテキスト等）
11	ソーシャルワークの展開過程④	ソーシャルワークの展開過程のなかでもプランニング（支援計画）について理解する。 キーワード：支援計画書、多職種・多機関との連携	ソーシャルワークの展開過程の各段階について確認しましょう。事例を通して演習課題に取り組み、解説を確認してみましょう。（テキスト第５章第３節、他のテキスト等）
12	ソーシャルワークの展開過程⑤	ソーシャルワークの展開過程のなかでもプランニング（支援計画）について理解する。 キーワード：支援計画書、多職種・多機関との連携・協力	ソーシャルワークの展開過程の各段階について確認しましょう。テキストに記載されたプランニング案をもとに、プランニングの実施に必要とされる専門機関、専門職について確認してみましょう。（テキスト第５章第３節、他のテキスト等）

13	ソーシャルワークの展開過程⑥	ソーシャルワークの展開過程のなかでも支援の実施とモニタリングについて理解する。 キーワード：実施状況の確認、課題や目標に対する評価	ソーシャルワークの展開過程の各段階について確認しましょう。事例を通して演習課題①に取り組み、解説を確認してみましょう。 （テキスト第５章第４節、他のテキスト等）
14	ソーシャルワークの展開過程⑦	ソーシャルワークの展開過程のなかでも支援の実施とモニタリングについて理解する。 キーワード：再アセスメント、再プランニング	ソーシャルワークの展開過程の各段階について確認しましょう。事例を通して演習課題②に取り組み、解説を確認してみましょう。 （テキスト第５章第４節、他のテキスト等）
15	ソーシャルワークの展開過程⑧	ソーシャルワークの展開過程のなかでも支援の終結と結果評価について理解する。 キーワード：評価、分析	ソーシャルワークの展開過程の各段階について確認しましょう。事例を通して演習課題に取り組み、解説を確認してみましょう。 （テキスト第５章第５節、他のテキスト等）

■レポート課題

※ 1 課題につき 1 冊のレポート提出台紙を使用すること。

※ レポートの提出方法については後述の 「■レポートの提出方法」を参照のこと。

１単位め	**（スクーリング事前課題）** 社会福祉実践においては、援助者自身の「気づき・自己覚知」が大切です。なぜ、援助者には「気づき」が大切なのでしょうか、あなた自身の体験を踏まえながら述べてください。
２単位め	**（スクーリング受講前までの提出を推奨。受講後の提出でも可）** 「バイスティックの原則」のうち、３つの原則を選び、実践やスクーリングでの体験を通して、援助のあり方を論じてください。
３単位め	**（スクーリング事後課題）** 「演習Ａ」のスクーリングを受講しての自身の振り返りを行いながら、社会福祉士として求められるものをまとめなさい。

※提出されたレポートは、スクーリングの受講許可後に添削指導を行い返却します。スクーリングの未申込み、受講不許可の場合は、添削指導は行わず返却します。

■アドバイス

【1 単位めアドバイス】

社会福祉実践において他者を援助するに当たっては、適切な他者理解が必要です。他者理解を得るためには、適切な自己理解が援助者としてはとても大切になります。利用者と向き合った時に自分自身の考え方や、性格、価値観などについての「気づき・自己覚知」が出てきます。過去の出来事が自分の性格や、癖、行動傾向などによって現在の自分が作り上げられています。ここでの「気づき・自己覚知」についてまとめてみることによって、自己理解に役立てることができます。このような視点からの「気づき・自己覚知」について論じてくださっても結構です。

また、社会福祉実践において援助者は、コミュニケーションを通して効果的な援助を展開していきます。コミュニケーションについては、言語コミュニケーション、非言語コミュニケーションの理解が必要です。ここでは、言語コミュニケーションにおける自分自身についての「気づき・自己覚知」や非言語コミュニケーション（視線、姿勢、表

情、音声、距離、位置）などについての「気づき・自己覚知」なども大切です。これらを通しての自分自身のコミュニケーションの特性についての「気づき・自己覚知」について感じたことをまとめてみることも大切です。このような視点からの「気づき・自己覚知」について論じてくださっても結構です。

あるいはこのレポート課題について、あらためて自分自身の日常生活における行動や考え方、癖などについての新たな「気づき・自己覚知」や、これまでの生活を振り返って感じた「気づき・自己覚知」、社会福祉専門職を目指すものとしての「気づき・自己覚知」について論じてくださっても結構です。

【2 単位めアドバイス】

利用者理解を深めるためには、理論的な面をしっかり理解するとともに、仕事やボランティアなどの実践活動、また、スクーリングでのロールプレイや日常生活における人間関係のなかで、対人援助の基本を考察しながら自らの資質を高めていく努力が求められます。

利用者主体とはなにか、最善の利益とはなにか。援助のあり方について実践的な面（職務・体験）と理論的な面（原理・原則）を結びつけながら論じてみてください。

また、バイスティックの原則は７つありますが、選択した３つを必ず明記してください。

【3 単位めアドバイス】

利用者の尊厳を守り、利用者主体の原則を実現するための社会福祉士の役割について考えてください。一般論としてだけではなく、「演習Ａ」のスクーリングを受講しての自身の体験をふりかえりも含めて、まとめてください。

■レポートの提出方法

１）1 課題につき、1 冊のレポート提出台紙を使用してください。

２）1 単位のレポート文字数は、2,000 字程度ですが、最長 4,000 字程度まで記入していただいても結構です。パソコン印字の場合→左右 40 字×30 行×2～4 枚まで可。

３）教員名の欄には記入しないでください。

４）各レポートは、所定の提出締切日までに提出してください（『試験・スクーリング情報ブック』参照）。

５）1 単位めレポート（スクーリング事前課題）は、スクーリング申込・受講条件達成を確認後、教員が添削します。